

臨床薬学2

| | | | |
|--------------|-----------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 臨床薬学分野 工藤 賢三 教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 臨床薬学分野、地域医療薬学分野 | | |
| 対象学年 | 4 | 区分・時間数 | 講義 15 時間 |
| 期間 | 前期 | | |
| 単位数 | 1 単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

実際に行われている薬剤業務全般についての基本的知識、技能、態度を修得、理解することで、時代が求める医療を実践できる薬剤師としての素養を身につける。特に臨床薬学2では、医薬分業、在宅医療、セルフメディケーションなど、地域医療における薬剤師の役割、また各種チーム医療の目的と薬剤師の役割について理解を深める。

・教育成果（アウトカム）

チーム医療や地域医療を実践できる薬剤師としての必要な基本的な知識、技能、態度について説明できる。薬剤師が行っている業務（保険調剤、在宅医療、セルフメディケーション、学校薬剤師、各種チーム医療）について理解を深めることで、薬剤師が行う地域医療とチーム医療の目的と意義、役割が説明できる。
(ディプロマ・ポリシー：1, 2, 4, 5, 6, 8, 9)

・到達目標（SBO）

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。
3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。
7. 地域包括ケアの理念について説明できる。
8. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。
9. 学校薬剤師の役割について説明できる。
10. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
11. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
12. 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。
13. 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。
14. 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。
15. 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。
16. 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。
17. 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。
18. 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチド

- ーピング活動等)について説明できる。
19. 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。
 20. 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。
 21. 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。
 22. 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。
 23. 災害時医療について概説できる。
 24. チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。
 25. 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。
 26. がん化学療法及び緩和医療における薬剤師の役割について説明できる。(☆)
 27. 感染制御における薬剤師の役割について説明できる。(☆)
 28. 精神科薬物治療における薬剤師の役割について説明できる。(☆)
 29. 栄養管理における薬剤師の役割について説明できる。(☆)
 30. 褥瘡管理における薬剤師の役割について説明できる。(☆)
 31. 妊婦・授乳婦の薬物治療における薬剤師の役割について概説できる。(☆)
 32. 糖尿病治療における薬剤師の役割について説明できる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座・分野 | 担当教員 | 講義内容/到達目標 |
|------|----|----|----------|----------|---|
| 4/10 | 火 | 3 | 地域医療薬学分野 | 高橋 寛 教授 | 地域医療と薬剤師(1):保険薬局における調剤、医薬分業、お薬手帳、在宅医療・介護、地域包括ケア 1. 地域薬局の役割を説明できる。 2. 医薬分業のしくみと意義を説明できる。 3. かかりつけ薬局の意義を説明できる。 4. 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。 |
| 4/17 | 火 | 3 | 地域医療薬学分野 | 高橋 寛 教授 | 地域医療と薬剤師(2):セルフメディケーション 1. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 |
| 4/24 | 火 | 3 | 地域医療薬学分野 | 松浦 誠 准教授 | 地域医療と薬剤師(3):一般用医薬品、生活改善薬 1. セルフメディケーションに用いられる要指導医薬品・一般用医薬品等の成分・作用・副作用を説明できる。 2. 生活改善薬の成分・作用・副作用を説明できる。 |
| 5/8 | 火 | 3 | 地域医療薬学分野 | 松浦 誠 准教授 | 地域医療と薬剤師(4):生活習慣のアドバイス、漢方薬、サプリメント、保健機能食品 |

| | | | | | |
|------|---|---|----------|-------------|--|
| | | | | | <p>1. 生活習慣のアドバイスについて説明できる。</p> <p>2. セルフメディケーションや健康の維持に用いられる漢方薬、サプリメント、保健機能食品などの成分・作用・副作用を説明できる。</p> |
| 5/15 | 火 | 3 | 地域医療薬学分野 | 高橋 寛 教授 | <p>地域医療と薬剤師（5）：地域の保健活動、学校薬剤師、災害時医療への対応、適正使用における啓発活動</p> <p>1. 学校薬剤師の役割を説明できる。</p> <p>2. 災害時における薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>3. 地域の保健活動、啓発活動について説明できる。</p> |
| 6/5 | 火 | 3 | 臨床薬剤学分野 | 千葉 健史 助教 | <p>チーム医療と薬剤師（1）： がん化学療法及び緩和医療における薬剤師の役割</p> <p>1. チーム医療の意義と薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>2. がん化学療法及び緩和医療における薬剤師の役割について説明できる。（☆）</p> |
| 6/12 | 火 | 3 | 臨床薬剤学分野 | 富田 隆 准教授 | <p>チーム医療と薬剤師（2）： 感染制御における薬剤師の役割、標準予防策、精神科薬物治療における薬剤師の役割</p> <p>1. 病院の感染制御における薬剤師の役割を理解し、説明できる。（☆）</p> <p>2. 感染制御におけるスタンダード・プリコーションを理解し、説明できる。（☆）</p> <p>3. 精神科薬物療法における多剤大量投与等の問題を理解し、説明できる。（☆）</p> <p>4. 精神科薬物療法における薬剤師の役割を理解し、説明できる。（☆）</p> <p>5. 精神科領域における感染制御の目的を理解し、薬剤師の役割が説明できる。（☆）</p> |
| 6/19 | 火 | 3 | 臨床薬剤学分野 | 伊藤 達朗 非常勤講師 | <p>チーム医療と薬剤師（3）：チーム医療と医師の視点による薬剤師の役割</p> <p>1. チーム医療の意義と薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>2. 医療の現状について説明できる。（☆）</p> |

| | | | | | |
|------|---|---|---------|-------------|--|
| 6/26 | 火 | 3 | 臨床薬学分野 | 小原 道子 非常勤講師 | チーム医療と薬剤師（４）：地域医療における薬剤師の役割 1. 地域医療における薬剤師の役割が説明できる。 2. 在宅医療における薬剤師の役割が説明できる。 |
| 7/3 | 火 | 3 | 附属病院薬剤部 | 朝賀 純一 主任薬剤師 | チーム医療と薬剤師（５）：栄養管理における薬剤師の役割とNST、褥瘡対策、妊婦・授乳婦、糖尿病治療における薬剤師の役割 1. 栄養管理及びNSTにおける薬剤師の役割について説明できる。 （☆） 2. 褥瘡対策チームにおける薬剤師の役割について説明できる。（☆） 3. 妊婦・授乳婦への薬物療法における薬剤師の役割について説明できる。（☆） 4. 糖尿病治療における薬剤師の役割について説明できる。（☆） |

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|--------------------|------|------|
| 教 | 新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本 [知識・態度]（第3版） | 上村 直樹、平井 みどり 監修 | 羊土社 | 2017 |
| 教 | 新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 薬剤師業務の基本 [技能]（第3版） | 上村 直樹、平井 みどり 監修 | 羊土社 | 2017 |
| 教 | 臨床薬学テキストシリーズ 薬学と社会 医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療 | 乾賢一 監修 | 中山書店 | 2017 |
| 参 | 治療薬マニュアル 2018 | 高久史磨、矢崎義雄 監修 | 医学書院 | 2018 |

・成績評価方法

定期テスト（90%）と小テスト（10%）で評価を行う。また、小テストは形成的評価にも使用する。

・特記事項・その他

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題を確認し、まとめておくこと。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
小テストは、授業中に解説し、フィードバックを行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---------------------------------|----|-----------|
| 講義 | Windows もしくは Macintosh のノート型 PC | 1 | スライド映写のため |